

令和7年度 第2回豊田市特別支援教育連携協議会 会議録

協議会名	第2回豊田市特別支援教育連携協議会
開催期日	令和8年1月23日(金)
開催時間	午後2時30分から午後4時15分
開催場所	豊田市役所 東庁舎6階 教育委員会会議室
出席者	<p>23名 (内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長(医療関係)・・・・・・・・・・1名 ・副会長(学識経験・医療関係・学校関係)・・2名 ・保護者代表・・・・・・・・・・4名 ・学校関係・・・・・・・・・・7名 ・福祉関係・・・・・・・・・・6名 ・労働関係・・・・・・・・・・1名 ・保育関係・・・・・・・・・・2名
<p><会議録(要旨)></p> <p>1 開会行事</p> <p>(1) 教育委員会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、497名の児童生徒の就学支援について検討されており、特別支援教育充実の必要性が高まっている。 ・共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築を進める。 ・特別支援教育推進計画の策定に向けて取り組んでいる。 ・来年度の特別支援教育の取組案について、忌憚のないご意見をいただきたい。 <p>(2) 会長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIによる教育環境の変化に対応すべく文部科学省は検討をしており、方向性は次の通り。 受け身的によく学ぶ子どもから主体的に学び人生に活かしていける子どもへ 多様な個性に合わせた教育へ 基礎的環境整備、合理的配慮、各学びの場の充実 ・文部科学省の検討に注意をはらいながら、よいものは豊田市にも取り入れていきたい。 ・常に現場を見つめ、未来につながるよう特別支援教育をさらに充実させていく必要がある。 <p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和7年度の重点取組の取組について</p> <p>① 重点1 多様な学びの場における支援・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックサポート体制について、将来の行き先、通うための方法など地域ごとで知りたいことのニーズが違う。ブロックごとの研修は意義がある。相談員も研修で話をしたことで、相談員への相談が増えた。 ・副次的な籍制度は県もまだ始まっていない。豊田市は独自にモデル事業を進めており先進的である。 	

② 重点2 教員の専門性、授業力・指導力の向上

- ・ほとんどの学校に特別支援教育アドバイザーが訪問をしている。特別支援教育は全学級対象という感覚をもっている管理職が増えており、各校の見識が深まっていることを感じている。
- ・経験の浅い教員が特別支援学級を担当することもある。そのため、アドバイザーによる助言には大変助けられている。アドバイザーが増えていくとよい。
- ・特別支援学校教諭免許法認定講習について、教員の資質向上につながる取組であるため継続してほしい。

③ 重点3 教育諸条件の整備

④ 重点4 中学校卒業後の生活へのスムーズな移行

- ・様々な成人期の支援を知ることができると、あせらないでこどもの支援ができる。実際に企業に行つての見学よいことなので、続けてほしい。

(2) 令和8年度に向けて

- ・特別支援学級を担当する教員の専門性の維持が難しくなっている。特別支援教育の核となる教員の育成ができるとよい。
- ・福祉制度のパンフレットはとても良い。周知、活用してほしい。
- ・福祉制度のパンフレットの保護者版を作成する際は、保護者の意見を聴く機会を設けてほしい。
- ・包括的性教育について、小学校の段階から発達段階に合わせてやっていけるとよい。障がいの特性を理解したうえで対応していくことが大切になる。

(3) 特別支援教育推進計画（案）について

- ・進捗管理を連携協議会で行っていく。
- ・特別支援教育推進計画は、皆さんの了承を得られたので、これで決定となる。

3 報告事項

(1) 令和7年度 豊田市特別支援教育の取組

- ・学級運営補助指導員が増えており、人材の確保と定着が大変だと思うが、今後も充実させてほしい。

(2) 令和7年度 豊田市校内支援体制状況調査

- ・前年度と比較してよい方に改善されており、特別支援教育に関する意識が高まっているということが表れている。

4 終わりのあいさつ（副会長）

- ・豊田市における特別支援教育の充実を実感した。ニーズに合わせた取組が行われている。
- ・今後、通常の学級における特別支援教育の充実が必要。文部科学省も重点としている。